

# 特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

代理人 山田牧人 様 山田牧人 〒107-0052 日本国東京都港区赤坂4丁目3番1号共同ビル赤坂 401		PCT 国際調査機関の見解書 (法施行規則第40条の2) [PCT規則43の2.1]	
		発送日 (日.月.年) 26.05.2015	
出願人又は代理人 の書類記号 15-0019-PCT		今後の手続きについては、下記2を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2015/055053	国際出願日 (日.月.年) 23.02.2015	優先日 (日.月.年) 17.03.2014	
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. A61F2/966(2013.01)i			
出願人 (氏名又は名称) テルモ株式会社			

1. この見解書は次の内容を含む。 <input checked="" type="checkbox"/> 第I欄 見解の基礎 <input type="checkbox"/> 第II欄 優先権 <input type="checkbox"/> 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成 <input type="checkbox"/> 第IV欄 発明の単一性の欠如 <input checked="" type="checkbox"/> 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明 <input type="checkbox"/> 第VI欄 ある種の引用文献 <input type="checkbox"/> 第VII欄 国際出願の不備 <input type="checkbox"/> 第VIII欄 国際出願に対する意見
2. 今後の手続き 国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。 この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から2月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。 さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

見解書を作成した日 18.05.2015			
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号		特許庁審査官 (権限のある職員) 姫島 卓弥 電話番号 03-3581-1101 内線 3346	
		3E	5076

## 第 I 欄 見解の基礎

1. 言語に関し、この見解書は以下のものに基づき作成した。
  - 出願時の言語による国際出願
  - 出願時の言語から国際調査のための言語である \_\_\_\_\_ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))
2.  この見解書は、PCT規則 91 の規定により国際調査機関が認めた又は国際調査機関に通知された明らかな誤りの訂正を考慮して作成した (PCT規則 43 の 2.1(b))。
3. この国際出願で開示されたヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、提出された以下の配列表に基づき見解書を作成した。
  - a. 提出手段  紙形式  
 電子形式
  - b. 提出時期  出願時の国際出願に含まれていたもの  
 この国際出願と共に電子形式により提出されたもの  
 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出されたもの
4.  さらに、複数の版の配列表又は配列表の写しを提出した場合、出願後に提出した配列の写し若しくは追加して提出した配列の写しが、出願時に提出した配列と同一である旨又は出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。
5. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求項	1-7	有
	請求項		無
進歩性 (I S)	請求項	1-7	有
	請求項		無
産業上の利用可能性 (I A)	請求項	1-7	有
	請求項		無

2. 文献及び説明

文献1 : JP 2013-183918 A (テルモ株式会社) 2013.09.19,  
全文、全図  
(ファミリーなし)

文献2 : JP 2010-533014 A (アンギオメット ゲゼルシャフト ミット ベシュレンクテル ハフツング ウント コムパニー メディツインテニヒク コマンデイトゲゼルシャフト) 2010.10.21,  
【0060】-【0097】、図2-10  
& US 2010/0174290 A1 & WO 2009/007432 A1 & EP 2164430 A1

文献3 : JP 2001-029478 A (テルモ株式会社) 2001.02.06,  
全文、全図  
(ファミリーなし)

文献4 : US 2010/0087906 A1 (Angiomed GmbH & Co. Medizintechnik AG) 2010.04.08,  
[0096]-[0097]、Fig.14  
& WO 2006/133960 A1 & EP 1890644 A1

請求項1-7に係る発明は、国際調査報告で引用されたいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。

文献1-4には、「チューブ体に一端部が固定されて前記チューブ体の先端方向への伸長を抑制する伸長抑制シャフト」及び「ステントデリバリーシステムの基端部に設けられ、前記伸長抑制シャフトの基端部が連結されて当該伸長抑制シャフトを基端方向へ移動させる第2牽引部」を有する点が記載されていない。

請求項1-7に係る発明は、上記の構成により、「チューブ体の先端方向への伸長を抑制する伸長抑制シャフトが設けられているため、伸長抑制シャフトによって、基端方向へ撓んだ状態のチューブ体が再び先端方向へ延びようとする力を受け止めることができ、ステントを放出する際のチューブ体の先端方向への延びを抑制して、ステントの長さが短くなる現象を抑制しつつステントを拡張させて適切な状態で留置することができる」という有利な効果を発揮する。